

夏山集中登山山行報告書

西穂高岳

木田

山名	西穂高岳		山行名	夏山集中登山		
ルート	上高地 ⇄ 西穂山荘 ⇄ 西穂高岳 ⇄ 西穂山荘 ⇄ 上高地					
山行日	2024年 8月2日(金)～4日(日)		天候	快晴		
参加者	CL:木元	SL:木田	合計: 2名			
ルート概略図 	コースタイム					
	地名		時:分	地名		時:分
	8/2 上高地 バスターミナル	集		西穂独標	着	9:05
		発	11:40		発	9:15
	西穂高 登山口	着	11:55	西穂山荘	着	10:10
		発	12:00		発	10:45
	西穂山荘	着	14:40	西穂高 登山口	着	12:40
		発			発	13:00
	8/3 西穂山荘	着		嘉門次小屋	着	14:10
		発	5:05		発	
西穂独標	着	6:00	8/4 嘉門次小屋	着		
	発	6:30		発	7:30	
西穂高岳	着	7:35	上高地 バスターミナル	着	8:45	
	発	8:15		発	12:05	
2024 夏山集中登山西穂高岳コースは、当初西穂高岳ピストンだけで進めていたが、若く元気なCLが、①焼岳、焼岳小屋泊から上高地へ下山するコースを検討。②焼岳の火山性地震増加の影響で入山を諦め、3日目は、明神（嘉門次小屋）から徳本峠ピストン。と、計画が二転三転した。トレーニング登山は、西穂の岩場に向けて岩稜訓練を行ったが1名が体調不良で断念、直前に発熱による体調不良から不本意にもCLがキャンセルするというアクシデントがあり2名だけの寂しい山行になった。						
第1日目 8/2(金) 平湯で双六岳、笠ヶ岳のメンバーと別れ、上高地で蝶ヶ岳、槍ヶ岳のメンバーと別れて、2人静かに梓川右岸を下り西穂登山口へ。20分余緩い登りを過ぎると、一気の直登を短い休憩を入れながら1時間半ほど登る。玄文沢の涼しい風もなくなり大汗をかきながら西穂山荘にコースタイムより30分早く14:40に到着。翌日早朝出発に備えて早い就寝。						
第2日目 8/3(土) 本山行メイン西穂高岳に向けて5時に出発。丸山を過ぎ2020年秋山例会で来た西穂独標で朝食。ここからが本番！初めて足を踏み入れる緊張感を持って西穂に向かう。ピラミッドピーク、チャンピオンピークを特に問題なく通過し7時半西穂高岳登頂。高度感たっぷりの頂上からは乗鞍岳、焼岳、遠くに白山、笠ヶ岳、黒部五郎岳、双六岳、薬師岳、劔岳、西鎌尾根から続く槍ヶ岳、間近に見える奥穂高岳、遠く富士山、南アルプスの山々と360度の展望を堪能した。笠ヶ岳、双六岳、槍ヶ岳、蝶ヶ岳へと、同時刻に他のメンバーが頑張っていることを思うとこれまでの取り組みを思い起こし感慨深いものがある。初期の目的を達成し後はひたすら下るだけ。西穂山荘を過ぎ元の登山口から明神へは梓川右岸の遊歩道を進む。14時過ぎには歴史ある嘉門次小屋着。到着後すぐに入浴、湯上りのビールは申し分ない。岩魚付の夕食の後は囲炉裏の火に照らされながら就寝前の日本酒を楽しんだ。〔朝5時から14時までの休憩を含む9時間（コースタイム10時間）の山行は、頑張れば可能ではあるが、今後の加齢を考えると8時間以内の計画に抑えたいと思う。〕						
第3日目 8/2(金) 元気なCLが計画してくれた徳本峠ピストンは単独行となるため中止した。チェックアウト直前まで周辺散策などのんびりと過ごし、上高地には9時前に到着、バスの到着までの間ベンチで寝そべりながら西穂、釣尾根、奥穂、前穂、明神を眺め続ける贅沢な時間を過ごした。						
		8/2(金)	2時間 55分	4.3 km	上り 882m 下り 22m	
		8/3(土)	7時間 40分	12.5 km	上り 678m 下り 1532m	
		8/4(日)	1時間 30分	5.5 km	上り 66m 下り 74m	
ヒヤリハットなし						

感想文

木元

4年前、例会で西穂高岳独標まで行ったが山頂までは登らず、大変残念に思っていました。今回、西穂高岳山頂まで登ることができ、これで、北穂、前穂、奥穂、そして西穂と一通り登ることができ、大満足です。天候にも恵まれ絶景を楽しむことができました。ただ、前回独標まで登ったときは、きついという印象は全くなかったのですが、今回はなかなかしんどいと感じました。ロープウェイで上ったのと上高地から歩いて登った違いはあるものの、年齢とともに体力の低下を実感しました。

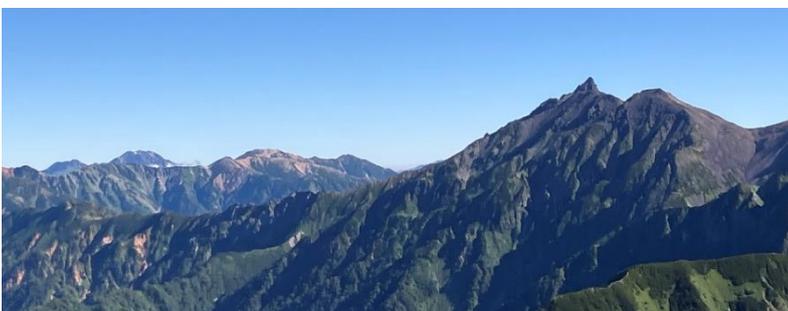
ところで、帰宅後、衝撃のニュースを見ました。まさに我々が西穂に登った同日、午後1時半過ぎということなので、我々は下山して上高地を歩いていた頃ですが、西穂高岳で62歳の男性が100メートル滑落し、ヘリで救助されたが、死亡が確認されたということです。亡くなられた方はお気の毒ですが、夏山メンバー全員が無事下山できて、本当によかったと思います。やっぱり、山ではちょっとしたことが大事故につながる可能性があります。油断せず集中すること、体力づくり、登山計画等、しっかり準備してから登ることが大事と改めて感じました。



←西穂高岳



山頂からの焼岳、乗岳



西穂高岳山頂からの西鎌尾根